



TITLE:

ナチス経済團體の課題

AUTHOR(S):

静田, 均

CITATION:

静田, 均. ナチス経済團體の課題. 経済論叢 1942, 54(1): 59-73

ISSUE DATE:

1942-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/131634>

RIGHT:

東京帝國大學經濟學會 經濟論叢

第五十四卷 第二號

昭和十七年二月

論叢

日本經濟學の源流……………

經濟學博士 本庄榮治郎

資本主義的論理……………

經濟學博士 柴田敬

江戸時代の經濟問題……………

經濟學士 堀江保藏

海運政策の積極性……………

經濟學士 佐波宣平

景氣循環過程に於ける消費財產業の意義……………

經濟學士 青山秀夫

研究

マルサス『人口論』の形而上學的基礎……………

經濟學士 白杉庄一郎

事變下の中小工業と金融……………

經濟學士 田杉競

トーマス・マンの重商主義思想……………

經濟學士 堀江英一

說苑

宋代の農田に就いて……………

經濟學士 穗積文雄

附錄

彙報・外國雜誌論題

ナチス經濟團體の課題

靜 田 均

ナチス獨逸の商工經濟における統制機構は、經濟團體とカルテルとの二重組織になつてゐるのであるが、このことは農業および食糧經濟における一元的な組織に對比するとき、顯著なるコントラストをなすやうに見える。兩者の相違を明かにするために、我々はまづライヒ食糧團について一瞥を投じなければならぬ。

ライヒ食糧團(Reichsernährungsamt)なるものは、從來の農業諸團體を整理統合し、新たにナチス的理念に基づいて創設された包括的な強固な自治團體であるが、その創設は一九三三年九月であるから、商工部門におけるナチス經濟團體の生誕に一步先んじたものといふべきであり、しかもその成績が頗る良好と傳へられる點において、とりわけ注目に値する。それは、言でいへばドイツ農民の精神のおよび物質的救済、新しいドイツ土地法の遂行、農産物市場の計畫化された秩序を確保せんとするものに外ならない。ライヒ食糧團には農業・農民・食糧經濟が打つて一丸として統括され、農産物市場の規正のため全權が附與されてゐる。世襲農場法が新ドイツ土地制度の核心をなす如く、ライヒ食糧團法は食糧經濟における職業秩序と市場秩序の基礎をなす。ライヒ食糧團は強制的な公法人である點に獨自の面目を保有してゐる。

試みにその構成を窺へば、左の如きものより成り立つ。

- (一) 農業に従事し、又は農業と密接なる關係ある人々
- (二) 農産物および食糧品の販賣に従事するあらゆる自然人および法人
- (三) 農産加工業に従事する自然人および法人
- (四) 農村協同組合(約四萬)およびその聯合會
- (五) ライヒ食糧團法に基づき市場規正の遂行のため作られた公法團體
- (六) その他諸種の農業者團體

右を一瞥して第一に氣づくことは、固有の農業生産に従事する狹義の農業者のみならず、農産物の販賣や農産物の加工に従事する一切の業者を包容してゐる點であり、これは商工部門において商業者のグルッペと工業者のグルッペとが別々に組織されてゐるのといさゝか相違する。ライヒ食糧團がかやうに農産物の販賣業者や加工業者をも網羅したのは、何故であらうか。それは生産者より消費者にいたる全行程を一貫して統制を加へんとする意圖に發したものであり、いふところの市場規正を狙つたものに外ならない。

ではライヒ食糧團の主要任務は何か。それは大要左の五つに概括することができ。

- (一) ドイツ農民階級、ドイツ農業、農村協同組合、農産物販賣業者、農産物加工業者の助成
- (二) ライヒ食糧團の成員間の經濟的社會的な事業の統制
- (三) ライヒ食糧團の包括する諸力の努力を公共の福祉に役立つやう調整すること
- (四) ライヒ食糧團に關聯せる諸問題につき、特に専門家の意見や申合を傳達することによつて官廳を支持すること
- (五) 成員の身分上の榮譽の保持

しかし、ライヒ食糧團の任務はもとよりこれのみにつきるわけではない。否、食糧農業大臣によつてさらに幾多の任務が課せられてゐる。かくてライヒ食糧團は、例へば世襲農場の設定その他農地に關する諸問題や農作物の保護や土地の評価や國土計畫や市場規正等に協力しなければならぬ。いふまでもなくライヒ食糧團は自由主義

時代の農業諸團體と異り、農村だけの特殊利益を取上げるものでない。むしろドイツ民族を構成し、維持し力づけるやう潑刺たる支持を與へんがために、民族と國家に對し責任をもつて成員を結集することこそが本來の任務なのであり、ライヒ食糧團のあらゆる活動はこの目標の達成をめざして行はるべきである。

ところでいま我々のテーマにとつて重要な問題は、ライヒ食糧團の經濟的任務として掲げてゐる市場規正の概念である。ライシユルによれば、市場規正とは責任ある指導に服するところの自治の方途において、生産・販賣・價格・價格差の統制のための措置を講じ、全體經濟的見地に従つて供給を確保せんとするすべての關係、經濟集團および職業集團の結集を意味する。ライヒ食糧團の市場規正は、カルテルやカルテル類似の團體のやり方と異なるばかりでなく、國家經濟的もしくは強制經濟的理念とも異なる。

ところで農業および食糧經濟における市場規正の原理は、これを左の如く要約することができる。

(一) 國內の生活條件を基礎とする價格形成における秩序と連續性とは、農業生産の維持および増進の前提である。連續的な購買力に適應せる消費者價格は、賃銀の安定性の前提をなす。これら二つの理由よりして、販賣および換金の規正と確保の要望が生れる。生産物の加工および配給をなす經濟段階および經營集團は、それらの勞務に對して公正賃銀を受取る。他を犠牲とするある經濟集團および經營集團の致富は排除される。

(二) 民族の生命の欲求は、あらゆる經濟行爲および秩序措置の基準である。需要の充足はできるだけ經濟的に、迅速且つ低廉に實現せねばならぬ。それゆゑ加工工業の給付能力は需要に適合する程度に約元されねばならぬ。暴利を求めた産業の清掃が行はれ、事業經營の新設擴張は監視されねばならぬ。調整された經濟領域の成立が促進され、梗塞した豫見しがたい販路は簡單化される。商業への許可に際しては、手工業におけると同様専門の知識と技能とが特別の役割を演ずる。

(三) 供給狀態の改善のためならびに公正のため、眞の給付が促進され、かつ保護されねばならぬ。價值の低い生産物、外見的供給等々はいいて無制限の競争の結果であり、それは秩序づけられた能率競争によつて置き換へられねばならぬ。

(四) 市場規正の遂行は、關係職業集團および經濟集團の専門の知識および實地の經驗の下に起る。決定は全體に、民族およ

び國家によつて責任を負ふところの指導によつて行はれる。

さて市場規正を具體的に遂行するためには、ライヒ食糧團はその下部構造として一定の市場團體(Markverbande)をもたねばならない。

まづ國民經濟的に重要な市場に關係あるものは、あらゆる經濟段階を通じて、すなはち生産者も加工業者も配給業者も悉く、地域的な自治團體に結成される。これいふところの經濟組合(Wirtschaftsverbände)である。經濟組合は食糧經濟の個々の部門毎に形成される。例へば穀物および飼料經濟、畜産經濟、牛乳および脂肪經濟等々の如し。さうして穀物經濟組合には世襲農場主、農業者、穀物販賣業者、飼料販賣業者、製粉業者、製粉販賣業者およびパン屋等が所屬してゐる。それは各段階にまたがる業者の垂直的な組織である。しかし、一定の地區毎に結成されてゐるのだから、地方的な團體にすぎない。

かゝる地方的な團體である經濟組合は、相集つて全國的な團體である中央聯合會(Hauptvereinigungen)を結成してゐる。例へば牛乳經濟組合は、牛乳經濟および脂肪經濟の中央聯合會を結成するが如し。かうした中央聯合會は約十ほどあるが、それは統一的な基準に従つて、經濟組合の活動を指揮し、ならびにその措置の合法性および合目的性を監視する任務をもつ。

他方、これとは反對に生産過程の各段階における關係業者の水平的な組織もある。それは經濟聯合會(Wirtschaftliche Vereinigungen)と名付けられてゐる。經濟聯合會は工業者の水平的組織であつて、實質上は強制カルテルに類し、事業の新設擴張の許可を與へる權限を與へられてゐるが、しかし一種の市場團體であり、政策の點で完全にライヒ食糧團に従屬するから、普通の工業カルテルとはいさゝか異なる。その後經濟聯合會はおほむね崩壊し

て、中央聯合會に吸収された。従つてそれは過渡的な存在であつた、といつてよいであらう。

ところでこれらの市場團體は法律上の基礎に立脚するものであるから、法律の規定に該當する業者は強制的に加入しなければならぬ。市場團體は農産物の合目的な加工と配給によつてドイツ民族の榮養を確保する權利と義務をもち、また經濟集團および經營集團間の關係の公正なる調整を齎す權利と義務をもつ。いづれも公法上の團體であり、ライヒ食糧團の成員である。ライヒ食糧團は市場團體の法律・命令・定款に基づく措置を禁止し、または廢棄することができる。市場團體はその運営に關してライヒ食糧團の指示に服さねばならぬ。市場團體の定款は、ライヒ農民指導者の發布するところである。これとやらんで國家の監督が加へられてゐる。すなはち食糧農業大臣は、市場團體の重要な命令に對して最後の決定權を握つてゐる。およそかうした仕組によつて公共の福祉と全體經濟の重要性が保障されるわけである。

以上において我々は、ナチスの農業統制組織についておほまかな概觀を與へたのであるが、農業團體の再編成の特性は、メルケルの指摘してゐる如く、次の諸點に見出すことができるであらう。

- (一) かつての任意團體から、いまや包括的な性格をもつた公共的な義務團體となつたこと。従つてもはやアウト・サイダー存在の餘地はありえない。
- (二) かつての水平的な一段階だけの組織から、垂直的な數段階にまたがれる組織へと發展したこと。
- (三) 多かれ少かれ個人的な、または集團的な目的に仕へた私的な團體から、公法的な團體となり、市場規正といふ公共的な任務を擔當することとなつたこと。

二

以上の簡単な瞥見よりして容易に看取しうるであらう如く、ナチス獨逸における農業統制の機構的特色は、ライヒ食糧團を最上位に頂く系統團體の下部組織が強制カルテル的な性格をもつといふことである。しかもそれは同一段階における水平的な組織でなく、生産より消費に至る各段階を貫く垂直的な組織である點において、普通の強制カルテルとは頗る異つた特色をもつものであることも、明かである。しかるに他方、工業においてはすでに他の機會に見たる如く、經濟團體とカルテルとは嚴重に區別され、經濟團體の強制カルテル化は極力警戒されてゐる。彼此對照するならば、そこに顯著なる相違を認めないわけに行かない。これはそもそも如何なる理由にもとづくのであらうか。いはば農業と工業におけるそれらの特殊性の然らしむる必然であるのか。それとも一時の過渡的様相であつて、工業においてもいづれば農業におけると同じやうに、一元的組織にあらためらるべき筋合のものであるのか。

食糧部門における先例に型どつて縱の經濟組織を商工部門にも採用しようとするこの可否については、同じナチスの陣營においても見解が岐れ、以前から争かれてゐた。しかしそれは政府の部内にまで反映し、食糧省と經濟省との對立となつて現はれるに及び、いよくもつて奇異なコントラストを形づくつたといはざるをえない。一九三八年ライヒ農民大會における食糧次官バックの演説と銀行保險業者大會における經濟次官ブリンクマンの演説がそれである。すなはち前者がライヒ食糧團の立場から、食糧部門に實現された如く、商工部門にも拘束經濟の原理が導入されることは、全體經濟の躍進のために必要であり、急務であると説くに反し、後者はあくまでも、商工業においては能率競争を維持促進することが無條件的に必要だ、と説くのである。換言すれば、ブリンクマンは、競争の排除しか目的としない、また加盟生産者の収益の確保しか目的としないあらゆるカルテル

3) O. H. J. Bühring, Wesen und Aufgaben der industriellen Wirtschaftsgruppen. 1940 S. 98ff.

政策に反對なのだ。この意味において彼はカルテル排撃論者である、といつてよい。

ブリックマンはいふ。ナチスの指導原理は、能率競争である。それは次第に人々の理解をえ、また人々をその淘汰過程に服せしめつゝある。公益優先を體得せる眞の企業者の健全なる利己心は、經濟の發展に不可欠のものである。營利心とそれから生ずる責任の歡びをもつた創意は、つねに經濟的・文化的進歩の發條であると。さうして彼れの見解は、フンタ經濟相やゲーリング元帥の裏書によつて、千鈞の重みを加へた觀がある。それと共に、ライヒ食糧團の先例にならつて同様の市場體制を商工業にも公式的に當て嵌めようとする要求は、さしあたり否定されたのであつた。

農業と工業における統制組織の機構的相違が、それ／＼の部門における內的事情の特殊性に由來するものとするならば、その特殊性とは、より具體的には何を指すのであらうか。それはだいたい次の諸點に歸するものゝ如くである。

第一、農業においては、主として比較的容易に捕捉しうる大量財の若干の大きい部類が問題となつてゐる。工業方面においても石炭・褐炭・加里等々は、生産・配給を通じて縦斷的な統制が行はれてゐる。相違するところは、ライヒ食糧團が公法的團體であるのに、後者は私法的團體である點だけである。然るにより高級の分化した工業生産物にあつては、事情はまるで違ふ。例へば機械工業を見よ。機械製作は大別して動力機の生産と作業機の生産とに分つことができる。動力機は五つの部門に、作業機は十九の部門に分けられる。それは更に細かに分けられる。かうした複雑多様な機械工業部門にあつては、食糧經濟の先例にならつて全體的な團體をつくるが如き、専門集團でさへも不可能とするところである。

第二、ナチス獨逸における農業の特殊な課題は、自由なる價格形成への依存から自己を解放し、繼續性の確保のため、拘束經濟の原理を導入することを必要ならしめた。農民の行爲は、貨幣價値の點から見るべきではなくて、全體經濟に對する意義において、また四箇年計畫の埒内において食糧經濟に課せられた任務に照し合せて見なければならぬ。換言すれば、農民の生活の安定、食糧自給のための増産が當面の問題であつた。生産可能性において狭く限界づけられた農業においては、市場經濟の動搖から獨立の地位におかれることが望ましい。

しかるに工業においては、農業に比して弾力性を有する。また有さなければならぬ。そこでは經營能率の増進が決定的に重要である。能率競争においては、個々の經營は對立し、消費者の審判をうけたなければならぬ。それはます／＼競争を刺激する。民族の血の源泉であり、食糧の自給をめざす食糧團は何よりも農民の生活安定を第一目的とするから、その市場體制は適正價格によつて農民に餘剩益を確保せしめることを要し、競争による淘汰は問題とならない。これに反して、工業においては企業者は競争にさらされねばならぬ。能率競争に落伍したものは、自己の地位をより有能な後繼者に譲らねばならぬ。企業者の創造力は、自由に發展せしめられることを要する。

第三、強制カルテル類似の組織を持ち込むことは、特に機械工業にあつては不利である。それは同工業の本質に適應しないばかりでなく、企業者の創造的活動の障害に導く。この點を姑く別としても、機械工業にあつては、個々の生産物を最初の生産者から最後の配給者にいたるまで嚴密に把握することは、事實不可能である。食糧生産物は比較的その種類が制限されてゐるに反し、工業生産物の種類は夥しい數に上つてゐる。また完成品になるまでの道程や最初の購買者にいたるまでの道程も著しく複雑だ。工業にあつては、個々の生産段階の内部に

において、廣範圍にわたる中間商業があり、それは食糧經濟に見られぬところである。

さらにより以上の困難を呈するものは、中樞團體に結束せしめる場合、何を基礎とするかといふ問題である。もし工業をば近似した原料毎に編成するとするならば、鐵・銅・アルミといったやうな、原料別の團體をつくらねばならぬであらうが、さうすると、一箇の原料によつて作られた製品の種類は夥しい數に上ると共に、各種の原料をほぼ均等に使用した製品は、如何なる部類に編入さるべきかに迷はざるを得ない。

要するに以上述べた如き理由によつて、工業においては、食糧經濟におけるが如き、生産・配給を一貫して統制する垂直的組織をつくることは、至難である。そしてそれは業種別の水平的組織に一應甘んぜねばならぬ必然的な理由を語るものでもある。しかし、このことは、食糧團の市場規正において至當と認められた原理および措置を、商工經濟の特殊事情を參酌したうへで、商工經濟に適用することを毫も妨げるものではない。

三

ナチスの經濟團體が自由主義時代のそれと全く異つた特色を有することは、他の機會に我々のすでに見たところであるが、こゝでは農業部門における統制組織との區別を明かにするに必要な限りにおいて、さらに別箇の角度からその任務について若干の補説を加へておきたいと思ふ。けだし、團體の眞の本質は任務からのみ理解しえられるばかりでなく、機構および機構の何らかの變化に對する批評の支點は、任務の檢討からのみ獲られるからである。ひとは職能と任務からのみ正しい機構をつくり上げることができる。他のあらゆる試みは、生命に従つて活動するのではなく、生命を離れた雛型を作る恐れあるにすぎない。

ナチス經濟團體の任務は廣汎多岐にわたるがゆゑに、いろいろの見地より考察することができる。一般に行は

れる分類に従へば、國家の委任事務と團體本來の自治事務に分ち、或はグロッパへの任務と會議所の任務に分ち、或は業種別に見た任務と地域別に見た任務とに分つ。が、こゝではしばらく經濟團體の任務を經濟政策的內容に即して考察しようと思ふ。

バルトによると、ナチスの經濟團體はつねに民族の福祉および民族への奉仕でふ觀點のもとに、第一に技術的に正しい生産および販賣をなすやう經濟を督勵しなければならぬ。第二に經濟的に正しい生産および販賣をなすやう經濟を督勵しなければならぬ。さうして技術的に正しい生産および販賣が可能であるためには、内部の經營がこの目的に照應して形成される必要がある、また經濟的に正しい販賣が可能であるためには、當該經營とその買手側との關係が秩序づけられることを要する。それゆゑ、ナチスの經濟團體は、民族の福祉に役立つ經營の合理的な形成と民族の福祉に役立つ市場秩序を實現するやう援助するといふ任務をもつ、といつてよい。

ナチスの經濟團體は、技術的に正しい生産および配分に對して如何に協力すべきであらうか。これに關してはまづ合理的な仕上げと合理的な販賣といふことが命令となつてゐる。そしてそれが個々の經濟の私的な利益からではなく、國民經濟的な見地からであることは、いふまでもない。ナチス以前においても經濟團體は、高價な商品には一定の品質證明書が必要だとか、不休傳導帶の利用度は製品の種類によつて異るとか、規範化および定型化は生産力を高めるとかいふ風な勧告を成員に與へてゐた。従つてこの種のことは、何ら新しい意味をもつものではない。新しい意味をもつのはむしろ四箇年計畫の樹立によつて新たに原料節約といふ題目でいろいろの任務が課せられた點にある。

次に重要なのは、教育事業である。本來、職業教育なるものは、手工業者の團體の主要なる活動領域に屬して

4) E. Barth, Wesen und Aufgaben der Organisation der gewerblichen Wirtschaft. 1939 S. 69 ff.

ゐたにすぎなかつたが、ナチスの時代になつてから大工業においても、大いに重要視されるやうになつた。それは自己責任から發生したのであるが、國家の認可と指導のもとに發展した。かくて今日では、商工會議所や手工業會議所において、後進者の養成が行はれてゐるばかりでなく、グループやライヒ手工業者聯合會が教育施設をもつてゐる。

その他金融・保險・交通・租税等の如き、生産費と直接關係の深い諸問題に對して、經濟團體は生産費の合理的形成のために重要な役割を演ずるばかりでなく、さらに全體經濟のおよび經濟法的領域において間接的な斡旋をなし、進んではこれらの補助活動以上に、經濟警察的もしくは經濟行政的な面において協力をなす。

四

經濟的に正しい生産と配給に協力することは、ナチス經濟團體の第二の重要な任務である。それは一言にして蔽へば、市場規正(Markordnung)といふ言葉で現はすことができる。經濟團體の市場規正が大きな役割を演ずるといふと、或は奇異の感を免れないかもしれない。なぜなら、一九三六年十一月十二日の告示によつて經濟團體は市場統制に直接携はることを禁ぜられてゐるからだ。

しかし、市場規正といふ概念は全く新しいナチス一流の概念であつて、市場統制(Markregelung)とは異なる。市場統制とは(一)商品または産業上の給付の生産または販賣の處理、(二)商品の購入の處理、(三)産業上の給付に對する註文の割付の處理等に對するあらゆる義務づけのほか、さらには(四)營業條件の適用、(五)價格の決定または價格の要求その他これに相當する一般的な推奨等に關する。諸々の義務づけを指稱する言葉である。従つてそれは拘束(Bindung)を、競争の制限を意味する。さうしてかくの如き拘束は、とりわけそれが國家權力と結びついた場合は、經濟生活の硬化に、強制經濟に導く多分の危險をもつ。これはナチス當局の極端に忌むところであ

る。少くとも商工經濟に關する限りは。

ところで市場規正といふ概念は、市場統制よりもつと強い概念である。それは經濟的見地よりする生産及び販賣の合理的形成の一切を含む。市場規正は水平的方向にも、また垂直的方向にも起りうる。換言すれば、同一段階における横の規正もあるし、また二段階以上に跨る縦の規正もある。前の場合において問題となるのは市場統制であるが、後の場合において問題となるのは市場調整 (Market Adjustment) である。市場規正の概念は、だから市場統制と市場調整とを包攝した上位概念に外ならない。一九三三年以前にあつては、市場規正といふことは問題とならなかつた。この概念を刻印づけ、またそれに内容を與へうる如き國家の經濟指導が存在しなかつたからである。一九三三年までは、單にカルテルが私的な市場任務を遂行してゐたにすぎない。が、いまやカルテルの市場統制活動は、商工經濟の市場規正の全體の枠の中にあらためて編入されねばならぬ。さうしてその基本的な方向は次の通りである。

第一、價格決定や割當は、石炭・加里・窒素の如き大量財にとつて不可缺の市場統制の手段である。けれども他の市場、なかにづく高度の發展をとげ分化した消費財の市場においては、名譽ある能率競争によつてよりよく規正される。拘束および權力的統制が、公式的にこれらの市場に移されるならば、高價格に硬化し、技術的および經濟的進歩を阻止する危険を齎らすであらう。ナチスの目指すところはむしろその反對であり、全民族の生活標準を引上げることにある。

國家が經濟指導を行ふ場合には、ある地域に確固たる市場統制を認むべきか、自由競争が作り出さるべきか、その中間の形態 (アウト・サイダーのあるカルテル) を存置すべきかを考へ、その時々々に適宜決定しなければならぬ。決定をなすのはむしろ國家であるが、その際國家の手傳をなすのが經濟團體の任務である。經濟團體は市

場および市場團體を觀察し、それにもとづいて國家に判斷の材料を與へねばならぬ。全體的見地に立つて、經濟團體は批判的に觀察すべきだ。經濟團體が自己のより狭い地域または業種の見地に立つて觀察するとすれば、その地域または業種がよく知られた全體の利益の下に立つべきであつて、日常の利害や眼前の利害に囚はれてはならぬ。内部的に獨立の者のみかみのり多き批判を下すことができる。經濟團體とカルテルを分離し、區別した第一の理由はこゝにある。

第二、グルッペは市場規正において消極的に警察の役目を果たすにとどまらず、さらに進んで今日なほ必要視されてゐる拘束が、やがては贅物となるやうに援助しなければならぬ。グルッペは民族と國家のため最大可能の經濟性と最高の給付にまで成員を教育せねばならぬ。すなはちそれに必要な共同動作を、技術的および經營經濟的領域において、また統計および市場分析の領域において遂行することを要する。それは將來拘束を贅物たらしめる前提條件である。他方、簿記や計算の基準に關するあらゆる草案は、經濟大臣が認可を與へることになつてゐる。經濟大臣は經濟團體の共同動作が市場統制的な協定や推薦に濫用されることのないやうに監督を加へねばならぬ。經濟團體がかうした新しい任務に挺身し、經營の改善に寄與したことは、その功績として認められるところである。

第三、總じてナチスの經濟政策は『よりルーズな緩和』の招來を目的とするものである。従つてそれが實現されない以上、本來の市場統制的協定や推薦は、カルテルその他の市場統制團體に委ねらるべきものであり、さうして經濟團體はかゝる市場統制團體の監督にあたるべきである。なぜなら、經濟團體は強制加入と指導者原理のうへに立脚する以上、一般經濟的諸任務を擔當し、カルテルの上に位し、それとならんで立つてゐるわけだから。

しかし、經濟團體の市場規正が次第に發展するにつれ、カルテルのあるものが經濟團體に吸収される可能性は考へられる。この點に關して眞先に問題となるのは、計算カルテルであらう。原價計算の基準を準備することが經濟團體の任務となれば、現存の計算カルテルの擔當する役割は經濟團體に移讓されることは、むしろ當然である。その實例は鑄鐵工業やグラフィ工業に見られるところである。經濟團體はさらに一步を進めて、價格カルテルや統一的な供給條件に關する協定に關しても、國民經濟が經濟團體への移讓を必要とするか否かを吟味しなければならぬ。メンバーの範圍が經濟團體のメンバーの範圍と一致する強制カルテルはさしづめ問題となりうる。合併は力の集中と費用及び摩擦による損失の節約とを意味しうるからだ。

ナチスの考によると、競争は能率の増進を促すために必要である。しかし、無謀な競争、過度の競争、投機的な競争は抑止されねばならぬ。それは攪亂を、無秩序を、社會的な禍害と經濟的な浪費を結果するからだ。この限りにおいてナチスは競争を否定するといへようが、しかし能率増進を齎す限りにおいては、明かにこれを肯定する。否、積極的に奨励をさへするのである。なかんづく工業部門において。けだし、政治的指導によつて經濟に課せられた任務は、商工經濟の分野に關する限り一般に、創造的な私的創意をなるべく自由に發揮せしめ、充分に競争を行はしむることにより、個々人に營利的ならびに能率的な努力の刺激を與へたときに、最もよく遂行されるからである。しかし、それは無制限に行はれてはならぬ。こゝにおいてか能率原理とならんで規正原理が、國民社會主義的經濟の構成原理として現はれる。

さうして商工經濟におけるその貫徹は、原理的には市場拘束乃至市場團體の存在を必要としない。強制カルテルの一般的普及による國民經濟の硬化は、ナチスの何よりも畏れるところである。ナチスはむしろアウト・サイダーの餘地を認める。市場攪亂者としてのアウト・サイダーの存在は否定するけれども、能率促進者としてのア

ウト・サイダーの役割を看過することはない。しかし、競争を認める限り、競争より生じうべき紛争を免れえないことは、明かである。かうした紛争の最後の處理は行政官廳および裁判所の掌るところであるが、その際經濟團體は、最も公平かつ實情に即した見地から自己の意見を表明し、補助機關的役割を演じなければならぬ。

同様のことは、價格形成および價格監視に關してもいふことができる。すなはち經濟團體は政府の物價統制に協力して、法令の徹底に盡力するばかりでなく、例へば價格停止令からの除外の申請に對する官廳側の許可不可の決定にあたり、有力な判斷の材料を提供したり、標記商品の價格引下政策の遂行に協力したりする。さらに經濟團體は、價格形成委員會を支持し、有機的な價格形成を招来せんがため、時として市場規正協議會(Marktordnungsgemeinschaft)を設立する。それは特定の商品の生産及び配給に關係ある専門集團及び専門小集團の連絡をはからんとする目的をもつて生れた組織であるが、これによつて見ても經濟團體の運営が頗る弾力性に富むことを想像することができる。すなはち農業乃至食糧經濟における垂直的市場組織の妙味を形をかへて商工經濟に攝取せんとする努力と見られうるであらう。

市場規正は、國內市場にのみ限るわけではない。それは外國市場に關してもいひうることである。外國貿易の領域における協力は、ナチス以前においても經濟團體の固有の任務であつたが、今日においては一層重要性を加へてゐる。といふのは、經濟統制の強化に伴ひ、國內においても、國外においても、法律その他が著しく複雑化されてゐるからである。新經濟團體はまづ第一に、外國市場の情勢や國內及び外國における國家的統制の發展に關して絶えず注意を拂ひ、これを成員に報道しなければならない。また貿易政策に關する工業者の要望を聽取し政府に傳達しなければならない。營業の許可や轉業に關して意見を具申することも重要な任務である。最後に新しい包括的な活動分野として附加さるべきは、輸出の振興といふことである。